

2025 年度介護職員実務者研修授業概要(シラバス)

NO1

| 科目名 | 人間の尊厳と自立 | | | | | |
|----------|--|-----|-------|-------|--|---|
| 到達目標 | 尊厳の保持、自立の支援ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 人間の尊厳と自立 | 1.生活支援の考え方 ①ニーズについて ②自立について ③自立支援について 2. ノーマライゼーションの理解 ①ノーマライゼーションの考え方 ②ノーマライゼーションの意義と影響 ③ノーマライゼーション理念の課題 3.権利擁護 ①個人の尊厳の保持と権利擁護の理念 ②権利擁護のための制度 ③審査請求および苦情申し立て制度 | 5 | 1 | 4 | (担当講師) 須田 知子 (指導方法) 講義&通信課題 | 講義 60 分 1.生活支援の考え方 ①ニーズの意味 ②自立と新しい自立について ③自立支援 2. ノーマライゼーションの理解 ①ノーマライゼーションの考え方 ②ノーマライゼーションの意義と影響 ③ノーマライゼーション理念の課題 3.権利擁護 ①権利擁護の理念、福祉従事者の役割 ②権利擁護の制度、苦情処理体制 ③審査請求の意味と申し立て |
| 合 計 | | 5 | 1 | 4 | | |

| 科目名 | 社会の理解 I | | | | | |
|--------|---|-----|-------|-------|--|---|
| 到達目標 | 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 介護保険制度 | 1. 介護保険制度 ①介護保険制度の概要 ②介護認定とケアマネジメント ③介護サービスの種類と内容 ④介護サービス事業者と施設 ⑤介護報酬 ⑥介護保険制度創設の背景 ⑦介護保険の実施状況と課題 | 5 | 1 | 4 | (担当講師) 須田 知子 (指導方法) 講義&通信課題 | 講義 60 分 1. 介護保険制度 ①用語の概念の整理、しくみ ②認定について、ケアマネジメント ③サービスの種類と内容 ④事業者と施設の種類の } → 同時に ⑤介護報酬のしくみ ⑥創設の背景 ⑦実施状況と課題、改正について |
| 合 計 | | 5 | 1 | 4 | | |

| 科目名 | 社会の理解Ⅱ | | | | | |
|-----------------------|---|-----|-------|-------|-------------------|--|
| 到達目標 | 1. 家族、地域、社会との関連から生活と福祉を考えることができる。 2. 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 3. 社会保障制度の発達、財源等についての基本的な知識を習得している。 4. 障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者に助言できる。 5. 成年後見制度、生活保護制度、介護保険サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。 | | | | | |
| 項目名 | 内容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 社会と生活のしくみ | 1. 生活の定義 ①生活者とは ②生活における適応技能について | 6.0 | 0.25 | 5 | (担当講師) 須田 知子 | 講義 120 分 1-1 生活の定義 ①生活とは何か ②適応技能について |
| 2. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 | 1. 地域共生社会の背景 2. 地域共生社会の内容 3. 具体的な施策 | 1.5 | 0.25 | 2 | (指導方法) 講義&通信課題 | 2. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 ①背景、内容 ②施策 |
| 3. 社会保障制度 | 1. 家族介護から社会介護への変遷と課題 ①介護問題 ②社会介護の要件 ③社会介護実現の課題 2. 海外の福祉と日本の現状 ①日本の社会福祉の現状と問題 ②各国の社会福祉の展開 ③今後の社会福祉の在り方 | 7.5 | 0.5 | 7 | | 3-1 家族介護から社会介護への変遷と課題 ①介護問題 ②社会介護の要件 ③社会介護実現の課題 3-2 海外の福祉と日本の現状 ①日本の社会福祉の現状と問題 ②各国の社会福祉の展開 ③今後の社会福祉の在り方 |
| 4. 障害者総合支援法 | 1. 障害者総合支援法と障害福祉サービスの概要 ①障害者総合支援サービスに関する制度改革の変遷 ②障害者総合支援法とサービスの概要 ③サービスの実際 ・居宅介護 | 7.5 | 0.5 | 7 | | 4-1 障害者総合支援法と障害福祉サービスの概要 ①障害者総合支援サービスに関する制度改革の変遷 ②障害者総合支援法とサービスの概要 ③サービスの実際 ・居宅介護 |

| | | | | | | |
|----------------|---|-----|-----|----|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・重度訪問介護 ・行動支援 ・同行支援 等 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・重度訪問介護 ・行動支援 ・同行支援 等 |
| 5. 介護実践に関する諸制度 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療制度 2. 年金制度 3. 所得保障 4. 生活保護 5. 児童家庭福祉 6. 住宅及び居住政策 7. 成年後見制度 | 7.5 | 0.5 | 7 | | 5-1 制度内容について <ul style="list-style-type: none"> ・医療制度 ・年金制度 ・所得保障 ・生活保護 ・児童家庭福祉 ・住宅及び居住政策 ・成年後見制度 |
| 合 計 | | 30 | 2 | 28 | | |

| 科目名 | 介護の基本 I | | | | | |
|--------------------------|--|-----|-------|-------|-------------------|---|
| 到達目標 | 1. 介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。 2. 個別ケア ICF、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 3. 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 介護福祉士の役割と機能 | 1. 介護福祉士制度 ①介護福祉士制度の成立 ②介護福祉士の養成と教育内容 ③資格取得の方法と業務範囲 | 10 | 1 | 9 | (担当講師) 本田 友和 | 1. (講義 20 分) ・制度成立の背景や「社会福祉士及び介護福祉士法」にある介護福祉士とは、を中心に講義 2. ICFの考え方(講義 20 分) ・権利擁護の視点に基づくケア(講義 20 分) ・リハビリテーション(講義 20 分) ・ICIDH→ICFに移行した背景とICFの構成要素について理解させる。事例を提示して活用方法を学ばせる ・リハビリテーション理念、職種の役割、連携について理解させる。 3. まとめ(10 分) |
| 2. 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 | 1. 尊厳を支えるケア 2. ICF の概念と実践 3. リハビリテーションの理念 4. リハビリテーションチーム における、各職種の役割と連携 5. 介護予防とリハビリテーション | | | | (指導方法) 講義&通信課題 | |
| 3. 介護福祉士の倫理 | 1. 介護福祉士の職業倫理 2. 個人情報保護と情報開示 3. 契約とサービスの提供 4. 身体拘束の禁止 5. 虐待防止 | | | | | |
| 合 計 | | 10 | 2 | 8 | | |

| 科目名 | 介護の基本Ⅱ | | | | | |
|--------------------------|--|-----|-------|-------|-------------------|--|
| 到達目標 | 1. 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 2. チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 3. リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 4. 介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 介護を必要とする人の生活の理解と支援 | 1. 生活環境のとらえ方 2. 地域生活支援 3. 地域アセスメントの技術と不法 | 20 | 1 | 19 | (担当講師) 本田 友和 | 1. 2(講義 30 分、演習 3 題 30 分) *環境:1題、地域:1題、チームケア:1題、 3. 4(講義 30 分、演習 30 分) |
| 2. 介護実践における連携 | 1. チームケア 2. 連携とチームケア 3. 対人援助サービス | | | | (指導方法) 講義&通信課題 | ・全項目について要点を絞って講義する |
| 3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 1. リスクマネジメントの概要 2. 介護における安全の確保とリスクマネジメントの意義 3. 在宅ケアにおけるリスクマネジメント | | | | | |
| 4. 介護従事者の安全 | 1. 介護職員の健康管理、ストレスマネジメント 2. 介護職員の労働の権利と制度 | | | | | |
| 合 計 | | 20 | 2 | 18 | | |

| 科目名 | コミュニケーション技術 | | | | | |
|----------------------|---|-----|-------|-------|---|---|
| 到達目標 | 1. 本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。 2. 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 3. チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等)に関する知識を理解し活用できる。 4. 状況や目的に応じた記録、報告会議等での情報の共有化ができる。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 介護におけるコミュニケーション技術 | 1)コミュニケーションの理解 ①コミュニケーションの意義目的 ②言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 2)他者理解と自己理解 3)信頼関係構築の基本姿勢 ①傾聴 ②受容 ③共感 4)面接技術 ①態度・姿勢 ②言語を用いた積極的関わり ③質問を用いた意図的関わり ④面接の技法 5)コミュニケーションと信頼関係 6)相談援助 ①対人援助専門職としての役割 ②相談援助の実際 7)コミュニケーション手段の障害 ①言語障害、②視覚障害、③聴覚障害 ④障害に応じたコミュニケーションの工夫 | 10 | 1 | 9 | (担当指導者) 小林 加奈 (指導方法) 1)3):講義 2・4・5・6)):ロールプレイング | 講義 20分 1)2)3) ロールプレイ 30分 面接技術 相談援助 |

| | | | | | | |
|------------------------------|---|----|-----|-----|-----------------------------------|-------------------------------|
| 2. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション | 1)高齢者とその家族の心理の理解 2)障害者(児)とその家族の心理の理解 3)こころのケアの基礎の理解 ①心理的安定と活性化への関わり ②感情表出促進への援助 ③居場所の確保と自立支援 ④ターミナル・死の受容の実際 4)家族支援 | 5 | 0.5 | 4.5 | 1)2):講義 3):講義&グループワーク、まとめ、相互評価 | 講義 20分 1)2) グループワーク 30分 3) |
| 3. 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション | 1)チームケアとコミュニケーション ①個人情報保護法と守秘義務 ②情報の共有と取り扱い ・カンファランス、ケア会議 2) 記録の意義・重要性 ①情報伝達と記録、②関係法令と記録の関係 ③安全と記録、④記録の実際 | 5 | 0.5 | 4.5 | 1)2):講義 | 講義 20分 1)2) |
| 合 計 | | 20 | 2 | 18 | | |

| 科目名 | 生活支援技術 I | | | | | |
|--|---|-----|-------|-------|-------------------|---|
| 到達目標 | 1. 生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 2. ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 3. 自立に向けた生活支援技術の基本(移動、移乗、食事、入浴、清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。 4. 住宅環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。 | | | | | |
| 項目名 | 内容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 生活支援とICF | ①生活支援とICFの考え方 ②事例でみるICF | 20 | 1 | 19 | (担当講師) 森田 久美 | 1.2(講義5分) ・ICF、ボディメカニクス |
| 2. ボディメカニクスの活用 | ①ボディメカニクスとは ②ボディメカニクスを活用した介護の原則 | | | | | 3. (講義30分、過去問の提示、解答・解説:15分) 生活支援技術の基本 ・介護技術の展開(ICFに絡めてしっかりと) |
| 3. 生活支援技術の基本 (移動・移乗、食事・入浴・清潔、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) | ①移動・移乗・歩行の基礎知識と介護 ②食事の基礎知識と介護 ③入浴・清潔の基礎知識と介護 ④排泄の基礎知識と介護 ⑤整容の基礎知識と介護 ⑥口腔ケアの基礎知識と介護 ⑦家事支援の基本原則と介護 | | | | (指導方法) 講義&通信課題 | ・食事の介護 ・排泄の介護 ・移動、歩行の介護、車椅子介護 ・睡眠、夜間の介護 ・入浴、清潔の介護 ・衣服着脱の介護 |
| 4. 環境整備、福祉用具活用等の視点 | ①快適な居住環境と介護 ②福祉用具の活用 | | | | | 4. (講義40分) ・環境整備、福祉活用の視点 |
| 合 計 | | 20 | 1 | 19 | | |

| 科目名 | 生活支援技術 II | | | | | |
|---|--|-----|-------|-------|---|--|
| 到達目標 | 以下について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。 ・環境整備 ・移動、移乗 ・食事 ・入浴、清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息、睡眠 ・人生の最終段階における介護 ・福祉用具等の活用 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 利用者の状況に合わせた生活支援技術 ・環境整備 ・移動、移乗 ・食事 ・入浴、清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息、睡眠 ・人生の最終段階における介護 ・福祉用具等の活用 | ①脳血管障害による片麻痺の利用者の外出支援 ②パーキンソン病による行動障害のある利用者の家事援助、及び入浴の援助 ③嚥下障害のある利用者の食事の援助 ④四肢麻痺のある利用者の睡眠の援助と褥瘡予防 ⑤ターミナル期にある利用者の整容の援助と口腔ケア | 30 | 1 | 29 | (担当講師) 森田 久美 (指導方法) 講義&グループワーク | (講義 40 分) ○身体状態に応じた介護 ・方麻痺、四肢麻痺 ・パーキンソン病 ・視力障害 ・嚥下障害 ・その他(ストーマ、ペースメーカー、カニューレ等) ・ターミナル (20 分) ○過去問提示、解答、解説 |
| 合 計 | | 30 | 1 | 29 | | |

| 科目名 | 介護過程 I | | | | | |
|------------------|---|-----|-------|-------|-------------------|--|
| 到達目標 | 1. 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 2. 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 3. チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 介護過程の基礎的知識 | 1. 介護課程の基礎的知識 1) ケアプランとサービス計画に関する基礎知識 2) 居宅サービス計画・各サービス計画(訪問介護計画、通所介護計画等)とサービスの関係 | 20 | 2 | 18 | (担当講師) 遠藤 祐子 | ・介護過程とは？の説明 ・介護過程の基本的流れ、理解等 ・多職種連携のチームケア |
| 2. 介護過程の展開 | 2. 介護過程の展開 1) アセスメントとニーズの把握 2) 居宅ケアプランの作成 3) 各サービス計画の理解 | | | | (指導方法) 講義&通信課題 | ・介護計画におけるアセスメント、意義、目的 ・アセスメント、ニーズの把握 ・各サービス計画の理解 |
| 3. 介護過程とチームアプローチ | 1. 介護過程とチームアプローチ 1) ケアプラン・サービス計画に基づいたモニタリングと記録 2) 介護職員のアセスメントと連携、ケアプラン・サービス計画の見直し | | | | | |
| 合 計 | | 20 | 2 | 18 | | |

| 科目名 | 介護過程Ⅱ | | | | | |
|---------------|---|-----|-------|-------|--|--|
| 到達目標 | 1. 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。 | | | | | |
| 項目名 | 内容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 介護過程の展開の実際 | 1) 利用者の状態に応じた介護過程の展開 ① 介護過程の基礎的知識 ・ケアプランとサービス計画の理解 ・各サービス計画とサービスの関係 ・アセスメントとニーズの把握 ・居宅(施設)ケアプラン ・各サービス計画 ・モニタリングと記録 モニタリングの意義目的 サービス提供者の記録 ② 利用者の状況に応じた介護過程の展開 (要介護度、障害、医療依存度、居住の場、家族の状況等) 2) 観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携 ① ケアプランサービス計画に基づいたモニタリングと記録 ② 観察とアセスメント ③ 安全の確保と事故防止 ④ 家族支援 ⑤ 職種間連携及び他施設との連携 ⑥ サービス担当者会議 | 25 | 2 | 23 | (担当講師) 遠藤 祐子 (指導内容) 講義&通信課題 | ・アセスメントとニーズの把握 ・アセスメントにおける視点 ・介護の専門性 ・ケアプランとサービス計画の理解 ・居宅・施設サービス計画とは ・モニタリングの意義、目的 ・サービス担当者会議について ・各サービス計画について(訪問・通所等) ・記録について ・介護計画立案までの説明等 *立案については介護過程Ⅲで実施 *介護過程Ⅰ・Ⅱを使って説明する (順不同) |
| | 合 計 | 25 | 2 | 23 | | |

| 科目名 | 介護過程Ⅲ | | | | | |
|---------------|---|-----|-------|-------|---|---|
| 到達目標 | 1. 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 2. 知識技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 3. 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 4. 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じた介護を行うことができる。 | | | | | |
| 項目名 | 内容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 介護過程の展開の実際 | 1)介護課程の展開方法の確認(1) | 2 | 2 | 0 | (担当講師) 佐藤 広和 | 介護過程ⅠとⅡで行ったものを復習し、実際に事例を出してアセスメントし、介護計画書を立案してもらおう。 |
| | 2)事例による介護過程展開 (2) (3) (4) (5) ①高齢者 ②認知症 ③障害者 ④総合 | 8 | 8 | 0 | (担当講師) (2)佐藤 広和・・・① (3)遠藤 祐子・・・② (4)五十嵐 朋子・・・③ (5)須田 知子・・・④ | 最初は個人。その後グループで。 ①②③④それぞれ行う |
| | 3)生活支援の技術と環境整備(6) ①ICFに基づく生活支援 ②ボディメカニクスの活用の実際 ③快適な療養環境の整備の実際 | 1 | 1 | 0 | (担当講師) 安田 直子 (指導方法) 講義・演習・介護技術評価 | 生活支援技術で学んだことを理解し、実施できるか確認。 できない場合は、再度講義し、確実に修得してもらい、活用できるようにする。 |
| 2. 介護技術の展開と評価 | 食事に関連する介護(7) (8) 提示事例による援助方法のデモンストレーション | 4 | 4 | 0 | (担当講師) 鈴木 浩介 (指導方法) 講義・演習・介護技術評価 | ○食事に関する説明 ・介助方法(ベッド上・テーブル席) *事例を提示し、事例をもとに介助してもらい評価する |
| | 排泄・失禁に関連する介護(9)(10) 提示事例による援助方法のデモンストレーション | 4 | 4 | 0 | (担当講師) 本田 友和 (指導方法) 講義・演習・介護技術評価 | ○排泄に関する説明(仕組み等) ・失禁の種類 ・トイレ、ポータブルトイレの介助の仕方 ・オムツ交換 *事例を提示し、事例をもとに介助してもらい評価する |

| | | | | | |
|--|---|---|---|--|---|
| <p>移乗・移動・歩行に関連する介護(11)(12) 提示事例による援助方法のデモンストレーション</p> | 4 | 4 | 0 | <p>(担当講師) 佐藤 広和 (指導方法) 講義・演習・介護技術評価</p> | <p>○移動・移乗介助に関する説明 ・ベッド上での移動介助 水平移動・上方移動/仰臥位から側臥位/ 一部介助/全介助 ・杖歩行介助 三動作介助/二動作介助 ・車椅子介助 *事例を提示し、事例をもとに介助してもらい、評価する</p> |
| <p>睡眠の介護(13) 提示事例による援助方法のデモンストレーション</p> | 2 | 2 | 0 | <p>(担当講師) 鈴木 浩介 (指導方法) 講義・演習・介護技術評価</p> | <p>○睡眠に関する説明(意味、しくみ、リズム等) ○ベッドメイキング *事例を提示し、事例をもとに介助してもらい評価する</p> |
| <p>入浴・清潔の介護(14)(15) 提示事例による援助方法のデモンストレーション</p> | 4 | 4 | 0 | <p>(担当講師) 五十嵐 朋子 (指導方法) 講義・演習・介護技術評価</p> | <p>○入浴介助 着脱介助/浴槽の出入り(通常と片麻痺) ○清拭介助 ○ベッド上での洗髪に仕方 *事例を提示し、事例をもとに介助してもらい評価する</p> |
| <p>整容の介護(16)(17) 提示事例による援助方法のデモンストレーション</p> | 4 | 4 | 0 | <p>(担当講師) 鈴木 浩介 (指導方法) 講義・演習・介護技術評価</p> | <p>○整容に関する説明(基礎知識など) 洗面/髭そり/整髪/爪切り/歯磨き/着替え *事例を提示し、事例をもとに介助してもらい評価する</p> |
| <p>ターミナルケア(18) ・ターミナルケアの条件とチームアプローチ ・ターミナルケアにおける倫理</p> | 2 | 2 | 0 | <p>(担当講師) 遠藤 祐子 (指導方法) 講義と討議</p> | <p>○ターミナルケアについての説明(計画と評価) ・家族への支援 ・緩和ケア、精神的ケア ・安楽死、尊厳死と倫理</p> |

| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
|------------------|--|-----|-------|-------|---|---|
| 3. 環境整備・福祉用具の活用 | 在宅生活と福祉用具の活用の実際(19) | 2 | 2 | 0 | (担当講師) 本田 友和 講義と事例検討 | ○在宅生活と福祉用具に関する説明 ・住宅改修について ・移動、起居、食事、排泄、口腔、入浴、コミュニケーションを支援する福祉用具 |
| 4. チームケアと多職種との連携 | 専門性の尊重と連携(20) ・専門性の理解 ・他職種・他機関との連携 | 2 | 2 | 0 | (担当講師) 須田 知子 (指導方法) 講義 | ○職種の専門性について ○他職種・他機関との連携方法について |
| 5. 総合演習 | 総合演習(21)(22)(23) | 6 | 6 | 0 | (担当講師) (21)佐藤広和、須田知子 (22)安田直子、本田友和、鈴木浩介 (23)佐藤広和、森田久美、五十嵐朋子 (指導方法) 演習、評価 | ○介護技術の演習・評価 ○介護課程の展開と共に知識・技術を総合的に活用した分析力、応用力を評価する。 ○介護技術の原理・原則の習得と実践と共に、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。 |
| 合計時間 | | 45 | 45 | 0 | | |

| 科目名 | こころとからだのしくみ I | | | | | |
|---|---|-----|-------|-------|--|---|
| 到達目標 | 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解 ・移動、移乗 ・食事 ・入浴、清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 | 1. 移動・移乗 ①移動・移乗に関する基礎知識 ②利用者の状況に応じた介護技術 ③移動と社会参加 2. 食事 ①食事に関する基礎知識 ②利用者の状況に応じた介護技術 ③食事と社会参加 3. 入浴・清潔保持 ①入浴・清潔保持に関する基礎知識 ②利用者の状況に応じた介護方法 4. 排泄 ①排泄に関する基礎知識 ②利用者の状況に応じた介護方法 5. 着脱、整容、口腔清潔 ①着脱、整容、口腔清潔に関する基礎知識 ②利用者の状況に応じた介護方法 | 20 | 1 | 19 | (担当講師) 安田 直子 (指導方法) 講義&通信課題 | 1. 移動、移乗 2. 食事 3. 入浴、清潔保持 4. 排泄 5. 着脱、整容、口腔清潔 * 1～5に関する基礎知識（目的意義）を理解する 利用者の状況に応じた介護について考える (講義、演習) |
| | 合 計 | 20 | 1 | 19 | | |

| 科目名 | こころとからだのしくみⅡ | | | | | |
|------------|--|-----|-------|-------|--|--|
| 到達目標 | 1. 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。 2. 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・筋肉・神経、ボデイメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。 3. 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。 | | | | | |
| 項目名 | 内容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1.人間の心理 | ①人間の欲求と自己実現 ・基本的欲求、・社会的欲求、・自己実現と尊厳 ②こころの仕組みの基礎 ・こころと脳・感情の仕組み ・感覚・知覚・認知、・記憶と学習 ・知能と思考、・ストレスとの関連 | 15 | 1 | 14 | (担当講師) 森田 久美 (指導方法) 講義&通信課題 | ①人間の欲求と自己実現 ・基本的欲求→欲求とは何か ・社会的欲求についての理解 ・自己実現と尊厳についての理解 ②こころの仕組みの基礎 ＊こころを理解する重要性 ○脳の仕組み(・感覚・知覚・認知、・記憶と学習、知能と思考 ○感情の仕組み ・ストレスとの関連する障害 |
| 2.人体の構造と機能 | ①構造機能と疾患の理解 1)・循環器系疾患、・骨格系疾患 2)・口腔疾患、・眼科疾患、・皮膚科疾患 3)・呼吸器疾患、・泌尿器科疾患 4)・神経系疾患、・精神疾患、・生活習慣病 5)・介護保険制度上の特定疾患の概要 ②高齢者に多い病気 | 15 | 1 | 14 | (担当講師) 森田 久美 (指導方法) 講義&通信課題 | ①人体の構造と機能についての理解 1)～5)についての理解を深める ②高齢者の代表的な疾患について理解する |

| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
|--|---|-----|-------|-------|--|--|
| 3.身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点 ・移動、移乗 ・食事 ・入浴、清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息、睡眠 ・人生の最終段階のケア | ①観察・アセスメントのポイント、留意点 ・身じたく ・移動・移乗、食事、入浴・清潔保持 ・睡眠、終末期の介護 | 30 | 2 | 28 | (担当講師) 森田 久美 (指導方法) 講義&通信課題 | ・身じたく(着脱、整容、口腔)に関連したしくみ ・移動に関連したしくみ ・食事に関連したしくみ ・入浴・清潔に関連したしくみ ・排泄に関連したしくみ ・睡眠に関連したしくみ ・終末期における心身の変化のアセスメント、観察ポイント、専門職との連携についての理解 ・死に対するこころの理解 *上記の項目についての理解を深め、アセスメント、観察ポイントや適切な介護の提供や専門職との連携について学ぶ |
| 合 計 | | 60 | 4 | 56 | | |

| 科目名 | 発達と老化の理解 I | | | | | |
|-------------------------|--|-----|-------|-------|--------------------------------------|--|
| 到達目標 | 1. 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 2. 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 老化に伴うこころの変化と日常生活への影響 | 1)高齢者の精神的特徴 ・知的能力、統合能力、記憶、記憶力、想起力の特徴 2)高齢者の心理的特徴 ・家族形態の変化と心理的傾向 ・社会的役割の変化と心理的傾向 ・身体的機能の変化と心理的傾向 ・経済的变化と心理的傾向 | 5 | 0.25 | 4.5 | (担当講師) 森田 久美 (指導方法) 講義&通信課題 | (講義 30 分) 1)老化に伴うこころとからだの変化 加齢の生理学 身体・精神・睡眠 |
| 2. 老化に伴う体の変化と日常生活への影響 | 1)高齢者の身体的特徴 ①身体機能の低下 ・老化現象、ホメオスタシス機能 ②生理的機能の低下 ・機能的変化、形態的变化、予備能力の減少 ・防衛反応、免疫機能の低下、回復力の低下 ③運動機能の低下と日常生活 ・行動障害、生活上の障害 ④感覚機能の低下と日常生活 ・生態感覚の低下と生活への影響 2)睡眠と休息 ①休息の意義と必要性 ②睡眠の意義と快眠への援助 | 5 | 0.25 | 5 | (担当講師) 森田 久美 (指導方法) 講義&通信課題 | |
| 合 計 | | 10 | 0.5 | 9.5 | | |

| 科目名 | 発達と老化の理解Ⅱ | | | | | |
|---------------------|--|-----|-------|-------|--|--|
| 到達目標 | 1. ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 2. 老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、生涯、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 3. 高齢者に多い症状、疾病等と支援の留意点について理解している。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 人間の成長・発達 | 1)人間の成長・発達の理解 ①生涯発達 ②人間の発達段階 ・発達課題論 | 5 | 0.25 | 4.5 | (担当講師) 森田 久美 (指導方法) 講義&通信課題 | (講義 30 分) 2) 老年期の発達、成熟と心理 ・老化とは ・老年期の発達課題 ・高齢者の心理的課題と支援の留意点 ・人間の成長、発達課題 |
| 2. 老齢期の発達・成熟と心理 | 1)老齢期の発達課題 ①心理的・社会的問題に対する適応 ・エリクソンの心理社会的発達理論 ・ハヴィガーストの発達課題論 | 5 | 0.25 | 5 | | (講義 60 分) 3) 高齢者に多い症状・疾病等と留意点 ・高齢者の疾病と食事・栄養管理 ・健康チェックとバイタルサイン ・感染症の種類と特徴 ・高齢者に起こりやすい感染症 ・呼吸器症状と食中毒の疾病 ・その他の訴え、症状と疾病 |
| 3. 高齢者に多い症状・疾病等と留意点 | 1)高齢者の疾病と食事・栄養管理 2)健康チェックとバイタルサイン ①健康チェックの基本 3)感染症の種類と特徴 4)高齢者に起こりやすい感染症 5)呼吸器症状 6)食中毒・消化器症状 | 10 | 1 | 9 | | |
| | 合 計 | 20 | 1.5 | 18.5 | | |

| 科目名 | 認知症の理解 I | | | | | |
|-------------------------|---|-----|-------|-------|--|---|
| 到達目標 | 1.認知症ケアの取り組みの経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 2.認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 3.認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。 | | | | | |
| 項目名 | 内容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 認知症ケアの理念 | ①認知症介護の変革 ・生活者としての理解 ・認知症高齢者の管理から支援への変化 ②認知症介護の質 ③共感的理解 ④生活者としての認知症高齢者の理解 ・生活全体の把握と理解 | 2.5 | 0.5 | 2 | (担当講師) 安田 直子 (指導方法) 講義&通信課題 | (講義 90 分) 1)認知症介護の基本と必要な観察・見守り ・認知症介護の変革、よりそうケアの意味するところ ・人間らしく生きることへの支援 ・認知症介護における学びと共感 2)心理的特徴 3)認知症の症状と障害の考え方 |
| 2 認知症による生活障害、心理・行動の特徴 | ①心理的特徴 ②認知症の症状と障害の考え方 ③問題とされる行動の心理的背景と対応 | 2.5 | 0.5 | 2 | | ・障害の捉え方 ・老年期と適応障害 4)問題とされる行動の心理的背景と対応 ・認知症の周辺症状 |
| 3. 認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本 | ①問題とされる行動の心理的背景と対応 ・認知症周辺症状 ・行動障害の原因と具体的対応 | 5 | 1 | 4 | | ・行動障害の原因と具体的対応 ・BD・ADの対応の違い ・人口構造の変化と介護職としてのケアのあり方 (演習 30 分) ・具体的対応について事例を挙げて演習 |
| 合 計 | | 10 | 2 | 8 | | |

| 科目名 | 認知症の理解Ⅱ | | | | | |
|-------------------|---|-----|-------|-------|-------------------|---|
| 到達目標 | 1. 代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 2. 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができています。 3. 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 | | | | | |
| 項目名 | 内容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1.医学的側面から見た認知症の理解 | ①認知症の概念 ②認知症の中核症状と周辺症状 ③認知症を引き起こす疾患と発生誘因 | 10 | 1 | 9 | (担当講師) 安田 直子 | (講義 60 分) 1.医学的側面から見た認知症の理解 ・「認知症とは」を柱に原因疾患と特徴、早期発見の手がかり、認知症のスケール、判定について理解させる (講義20分、演習20分) |
| 2.認知症の人や家族への支援の実際 | ①認知症の人を抱える家族の理解 ②認知症の人の家族へのケア ③社会資源の活用 ④認知症介護と医療・保健・福祉サービス | 10 | 1 | 9 | (指導方法) 講義&通信課題 | 2.認知症の人や家族への支援の実際 ・認知症の本人と家族を共に支援することを理解させる ・活用できるサービス、地域の支援について学ばせる ・社会資源の創出、活用についての演習(20分) |
| | 合計 | 20 | 2 | 18 | | |

| 科目名 | 障害の理解 I | | | | | |
|-------------------------|--|-----|-------|-------|---|---|
| 到達目標 | 1.障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 2.障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 3.障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1.障害者福祉の理念 | ①障害の概念 ・概念の変遷 ②障害者福祉の基本理念 ③障害者福祉制度・施策の動向と背景 ・障害者関係福祉法の概要 | 2.5 | 0.5 | 2 | (担当講師) 五十嵐 朋子 (指導方法) 講義&通信課題 | (講義と演習) 1)障害者福祉制度、施策の背景と動向、障害者理解の課題 ・障害、障害がある人の理解 ・障害者福祉と理念 ・障害者の生活実態とニーズ |
| 2.障害による生活障害、心理・行動の特徴 | ①ICF ②生活障害の理解 ・心理の特徴、行動の特徴、生活実態とニーズ | 2.5 | 0.5 | 2 | | |
| 3.障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本 | ①家族の心理の理解 ②家族への支援の基本と実際 | 5 | 1 | 4 | | |
| 合 計 | | 10 | 2 | 8 | | |

| 科目名 | 障害の理解 II | | | | | |
|-------------------|--|-----|-------|-------|--------------------------------------|---|
| 到達目標 | 1. 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 2. 障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 3. 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 | | | | | |
| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1. 医学的側面から見た障害の理解 | ①身体障害 ②知的障害 ③精神障害 ④内部障害 ⑤高次脳機能障害 ⑥発達障害 ⑦難病対策 ⑧疾病・障害の受容 | 10 | 1 | 9 | (担当講師) 五十嵐 朋子 (指導方法) 講義 | (講義と演習:60分) 1. 医学的側面から見た障害の理解 ①～⑧ |
| 2. 障害の特性に応じた支援の実際 | ①障害者福祉の基本理念 ・リハビリテーション ・ノーマライゼーション ・個人の尊重と自己決定 ・QOLの向上 ②障害者・児の支援方法 ・医学モデルとケアモデル ・ケアマネジメント | 10 | 1 | 9 | (担当講師) 五十嵐 朋子 (指導方法) 講義 | (講義と演習:60分) 2.障害者・児への支援の実際 ①～② |
| | 合計 | 20 | 2 | 18 | | |

| 科目名 | 医療的ケア | | | | | |
|------------------------|--|-----|-------|-------|---|------|
| 到達目標 | 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 | | | | | |
| 項目名 | 内容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
| 1.医療的ケア実施の基礎 | ①人間の尊厳と医療・介護の倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳と自立を支える介護 ・利用者の生命に直結する医療的ケア ②医療行為に関わる法律と解釈 <ul style="list-style-type: none"> ・医療法による定義 ・医療的ケアと医行為 ③安全な療養生活 <ul style="list-style-type: none"> ・安全の考え方 ・リスクマネジメント ・救急蘇生法 ・健康状態の把握とバイタルサイン ・感染予防対策と清潔保持 | 20 | 2 | 18 | (担当看護師) 五十嵐 綾子 高橋 珠枝、藤崎 紀子 (指導方法) 講義&実演 | |
| 2.喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順) | ①呼吸について <ul style="list-style-type: none"> ・外呼吸と内呼吸、呼吸運動 ・呼吸困難の状態と原因 ・呼吸異常時の症状 ②痰の性状と吸引の必要性 ③介護職員の行う吸引の範囲 ④吸引時のトラブル ⑤吸引に必要な物品 ⑥人工呼吸器装着時の吸引について ⑦吸引実施手順 ⑧異常時・緊急時の対応 ⑩排痰促進法 | 15 | 2 | 13 | (担当看護師) 藤崎 紀子 (指導方法) 講義&実演&演習 | |

| 項目名 | 内 容 | 時間数 | 通学時間数 | 通信時間数 | 担当講師及び指導方法 | 講義内容 |
|------------------------|--|------|-------|-------|---|------|
| 3.経管栄養 (基礎的知識・実施手順) | ①消化吸収 ②消化・吸収の異常と症状 ③栄養補給の方法 ④経管栄養法のメリット・デメリット | 15 | 2 | 13 | (担当看護師) 高橋 珠枝 (指導方法) 講義&実演&演習 | |
| 4.演習・テスト | ①喀痰吸引 ・口腔内吸引:5回以上 ・鼻腔内吸引:5回以上 ・気管カニューレ内部吸引:5回以上 ②経管栄養 ・経鼻経管栄養法:5回以上 ・胃瘻(腸瘻)経管栄養法:5回以上 ③救急蘇生法:1回以上 | (18) | (18) | 0 | (担当看護師) 星かおる、高橋珠枝 五十嵐綾子、大野香織 藤崎 紀子 (指導方法) 演習&テスト | |
| | 合 計 | 50 | 6 | 44 | | |